

守谷市教育委員会点検評価意見書

点検評価委員 遠藤 一美

1 教育委員会

守谷市教育委員会は、「新しい時代をたくましく生きぬく人づくりを目指して」という教育目標を掲げ、その具現化のために学校教育・社会教育において守谷市独自の様々な施策を実施し、児童・生徒や市民に信頼される教育を推進しています。年々、内外から高い評価を受けていることは多くの方が周知しているところです。

守谷市は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正（平成27年4月1日施行）に伴い、市長と教育委員会が地域教育の諸課題を共有するための「総合教育会議」を設置し、民意を反映した教育行政の推進に努めています。

今年も教育委員会の会議が、定例会12回、臨時会1回、協議会1回開催されています。審議案件は52件に上り、慎重かつ着実な審議が進められています。

平成30年度の決算概要を見ると、一般会計総額の15.9%が教育費に使われています。また、ふるさと納税額の12%（約1億4千万）も教育関係に使われています。教育最優先の守谷市らしい歳出状況だと思います。

今後、少子高齢化や人口減少、グローバル化の急速な進展による国際競争の激化が予想される中、国際社会で活躍できる次代を担う子どもたちの育成が望まれます。守谷市学校教育グランドデザインのもと、「知・徳・体」のバランスのとれた子どもたちの育成に努めることを期待します。

2 学校教育課・指導室事業

（1）教育環境の整備・充実

児童生徒が快適な環境の下で学習できるように整備すること、また登下校の安全確保や不審者侵入等の危機管理体制の確立は、喫緊の課題です。

守谷市では、御所ヶ丘中学校の体育館改修、御所ヶ丘小学校の校舎改修、大野小学校体育館改修等、環境整備に努めています。特に、障がいのある児童生徒に配慮した施設・設備の構築は、大いに評価したいと思います。また、学校の施設設備の老朽化も進んでいます。守谷市では、学校施設長寿命化計画を策定し計画的な改修を進めています。膨大な経費が掛かるとは思いますが、計画的なメンテナンスをお願いします。

全国で通学路での事故や事件が数多く報道されており、保護者の皆さんも不安を抱えていることと思います。学校での交通安全指導や防犯教育の強化はもちろんですが、警察や道路管理者等の関係者との連携を密にし、安全対策を講じることが大切だと思います。通学路への防犯カメラの設置を推進し、地域全体にアピールすることも予防につながると考えます。

（2）学校教育プラン

①ステップアッププラン（確かな学力の育成）

児童生徒に確かな学力を身に付けさせることは、学校教育の根幹です。平成30年度の茨城県学力診断テスト正答率を見ると、小中学校ともすばらしい正答率を示しています。子どもたちの学力が定着していることが分かります。さらに児童生徒の主体的・対話的な学びを推進してほしいと思います。

一方、学力の個人差が課題となっているようです。対策としては、サタデー学習支援教室を27回実施したり、学習支援ティーチャーを各学校に35名配置して個別に支援をしているようです。「落ち着いて勉強することができた」という児童が7割を超えていることは、すばらしいと思います。今後も個に応じた学習支援を充実させ、

一人ひとりを大事にした教育を推進してほしいと思います。

②ハートフォーヒューマンプラン（豊かな心をはぐくむ教育の推進）

学校教育では、全教育活動を通して、「自分はやればできる」という自信と「みんなに必要とされている」という自己有用感を育むことが大切です。きらめきプロジェクト（守谷市保幼小中高一貫教育）を通した道德教育の充実や小中高合同の「きらめきフォーラム」等の体験は、意義あるものと思います。

守谷市総合教育支援センターの支援活動は、教育に悩む保護者や学校に登校できない不登校児童・生徒にとって、心のよりどころとなる大切な支援活動です。学校と家庭そして専門機関との連携が必要不可欠です。来談を待つのではなく、積極的に訪問支援（アウトリーチ）を行い、子どもの気持ちに寄り添って欲しいと思います。

「守谷市いじめ対策本部及び守谷市立小中学校いじめ対策本部設置要綱」を策定し、いじめの早期発見、迅速かつ組織的な対応、解消に向けての具体策を講じる組織を位置づけたことは、喫緊の課題に対応する素晴らしい活動だと思います。特に各学校との連携によるいじめ対策会議での情報の共有は、いじめの早期発見、いじめの予防のために必要不可欠です。

③ヘルス&フィジカルプラン（健康と体力をはぐくむ教育の推進）

人生100年時代が叫ばれる昨今、心身ともに健康なたくましい身体づくりは、人生設計の基盤です。そのためには食育を中心とした栄養や食物についての知識や関心を高め望ましい食習慣の定着を図ること、そして全教育活動の中で運動を取り入れ体力の向上を図る必要があります。また、運動に関心を持たせる環境づくりが大切です。

守谷市の小中学校の体力テストA+Bの達成率は、ほぼ県平均と同様です。部活動については、学校にみに依存せず部活動指導員の積極的な導入やクラブチームへの加入など、選択の幅を広げることも考えなければならないと思います。

④ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）

世界経済の結びつきが深まりグローバル化が加速する中、新しい時代に対応した教育を進めることはとても重要なことです。守谷市では、自らの力で将来を切り拓いていくために、外国語教育・情報教育・環境教育・キャリア教育に力を入れています。

キャリア教育では、中学2年生の職場体験学習等を通して望ましい勤労観や職業観を育んでいます。職場体験の事業所探しにはご苦労があると思いますが、教育委員会のリーダーシップの下、継続をお願いします。

外国語教育においては、全小中学校にALTを常駐配置され外国語に触れる場面を多くしています。このことは県インタラクティブ・フォーラムへの出場や高円宮スピーチコンテストの上位入賞という成果に表れていると思います。また、中学3年生の英検3級以上の取得率は51%を超え、素晴らしい成果を収めています。先生方の指導に感謝の意を表します。

プログラミング教育では、2名のICT支援員を配置し、授業支援や教員研修を進めています。教員の実態を考えると、先生たちの指導力の格差の問題も考えられます。教職員の指導力アップに力を入れて欲しいと思います。また、情報モラル教育の推進も期待しています。

⑤パートナーシッププラン（開かれた学校づくりと学校・家庭・地域等の連携）

学校は地域の文化の中心的存在です。学校・家庭・地域が連携して開かれた学校づくりを進める必要があります。守谷市の学校では、信頼される学校づくりに努め、積

極的な授業公開と情報発信をしています。特に各学校のホームページは毎日更新され、保護者や地域の皆さんからも好評だと聞いています。また、地域人材の活用では、スクールサポーターや学校支援ボランティアのみなさんの協力が効果的に機能しているようです。地域ぐるみで子どもたちを育てていきたいものです。

3 給食センター事業

給食センターでは、学校給食法で定める7つの目標の達成を目指し、着実な取り組みを進めています。特に注目したい点は、安心安全で安定した学校給食を提供するために、児童・生徒からの声を反映させた献立作りや、食物アレルギーを持つ児童生徒への配慮がなされていることです。食物アレルギーによる事故を防止するために、保護者・学校・給食センターが情報を共有し「給食確認票」を作成したり、2献立制を活用したりするなどの工夫が見られます。

各市町村で課題となっている給食費未納の問題では、守谷市は給食費収納率99.91%と素晴らしい収納率です。守谷市民の意識の高さと関係の皆様の努力のおかげだと思います。

消費税率引上げや食材費値上がりによる給食費の改定については、やむを得ない状況だと思います。改定には保護者の皆様に納得してもらえるように説明責任を果たしていただきたいと思います。

衛生管理では、調理場内のドライ運用や新規の調理機器を導入し、衛生的で安定した食の提供に努めており評価できます。早急に新しい給食センターの稼働に期待をしています。

4 生涯学習・図書館事業

(1) 生涯学習事業

①自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供

公民館の講座に参加した人は、延べ2,666人だそうです。市民一人ひとりが自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることが出来るように意欲的に生涯学習に取り組むことは、大変意義深いことです。講座やイベントの情報を積極的に周知する工夫も必要です。中央公民館の大規模改修には賛成です。明るく広々とした雰囲気になればいいと思います。中学生の富士登山は、自然の厳しさと戦いながら仲間と苦を共にする貴重な体験です。是非、続けてほしいと思います。

②生涯スポーツのきっかけづくりと自主的な活動の支援

市民アンケートによると、「日頃からスポーツを行っている市民の割合」が、32.4%で市の掲げる40%に満たない状況です。茨城県で開催される第74回国民体育大会や東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、多くの市民がスポーツに親しむ機会を増やしたいものです。

守谷ハーフマラソンは、全国各地のマラソン愛好者から高い評価を受けており、ボランティアスタッフの支援も素晴らしいと思います。さらなる盛会を期待します。

③親しみを感ずる芸術・文化の推進

守谷市では文化協会と連携し、芸術祭の開催、夕べのコンサートの開催、守谷市美術作家の展覧会、アーカスプロジェクトの推進等を通して、市民が芸術や文化に気軽に親しめるような機会を提供しています。楽しみにしておられる市民の皆さんのために、マンネリ化しない新たな取り組みを考えてほしいと思います。アーカスプロジェクトについては、学校の児童・生徒との交流の場を増やしてほしいと思います。

④文化財を愛する心の育成

市民の皆さんの市の文化財への知名度は、25.3%とお聞きしました。この数字は少し残念な感じがします。市としても、守谷歴史さんぽ、文化財マップ、守谷ふるさとかるたなど広報活動を進めているところですが、さらに市のホームページ等を利用してさらなる周知をお願いしたいと思います。

⑤安心して遊べる場の提供

共働き家庭の増加に比例して、児童クラブの利用者が増加し利用率が28%に達していると聞きました。運営を民間に委託しているとは思いますが、学校と協力して児童の安心・安全な居場所の確保をお願いしたいと思います。

(2) 図書館事業

①いつでも気軽に気持ちよく利用できる図書館

令和元年度より運営が市直営となり、市民のニーズや要望を的確に把握した図書館運営が求められています。年間の市民一人当たりの平均貸出点数が14.49点で、県内でも上位の利用率を示しています。運営形態が変わっても利用者が気持ちよく利用できるように努めて欲しいと思います。

②図書館機能の強化とサービスの充実

子どもたちの読書離れが叫ばれています。学校改善プランに示されているように、主体的・対話的で深い学びを支える学校図書館への転換を図るために、中央図書館と学校図書館の連携をより一層深め、子どもたちの読書活動推進の支援をしていただきたいと思います。

③施設・設備の安全

建設から24年が経過し、施設の老朽化が進んでいるようです。市民目線の計画的な修繕及び改修を期待します。

【総括】教育委員会の全体評価

学校教育における喫緊の課題は、①いじめ問題、②児童生徒の安心・安全の確保の問題、③新学習指導要領の実施（授業時数増加）、④教職員の働き方改革の問題です。

守谷市では「子育て王国もりや」実現に向けた学校教育改革プランを策定し、既成概念に捉われない斬新な改革を実践しています。特に「守谷型カリキュラム・マネジメント」により、前・後期制の導入、授業実施日の改革、週3日の5時間授業等の改善を図り、教育活動の質の向上や先生方や子どもたちの生活スタイルの改善の取り組みを進めています。

また、教職員の働き方の改善にも様々な手立てを講じています。タイムカードの導入、留守番電話の活用、部活ガイドライン策定、学習支援ティーチャーズの配置、ALTの全校常駐配置、いじめ対策指導員の配置、タブレット2,000台の導入、ICT指導員の導入、校務支援システムの導入等々です。このような施策は先生方にとって、児童生徒に向き合う時間が増えることにつながり大変ありがたいことだと思います。このような守谷市の教育は、全国からも注目され視察にくる団体も多く、評価も高いと聞いています。

守谷市教育委員会の取り組みは、将来を見通した先進的な取り組みであり、恵まれた教育環境の中で子どもたちを積極的に育てていこうという意気込みが感じられ、その姿勢は高く評価します。今後さらに教育改革プランの推進を図り、未来を担う子どもたち一人ひとりを大切にしたい教育を進めてほしいと思います。